

**『身近な幸せ』重視の日本と『成長と社会貢献』重視の他国
～11 か国調査で見た親の『子ども観』が『将来への期待』に与える影響～**
スプリックス教育財団 基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査 2025

公益財団法人 スプリックス教育財団（本部：東京都渋谷区／代表理事：常石 博之）は、基礎学力に対する意識の現状を把握することを目的に、「**基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査 2025**」を実施しました。今回の第 6 回目の報告では、**保護者の『子ども観』と『将来への期待』の国際比較**に焦点を当てました。

本調査では、日本を含む世界 11 か国の小中学生の保護者 2,313 人に「あなたにとってお子様はどのような存在ですか」「お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか」と質問しました。その結果、**日本の保護者は『家族や友人、自分の意見を大事にしてほしい』と身近な幸せを子どもに期待する傾向が強い一方で、調査に参加した日本以外の国の保護者は『社会に貢献し経済的に自立すること』等、将来の社会的な役割を子どもに期待する傾向が明らかになりました。**

調査結果のポイント

- ① **子ども観：『感情的な関係』を強く意識する日本の保護者、『社会的役割への期待』をする他国の保護者**
日本の保護者にとって子どもは「喜び」(90%)であるという回答が他国より多く、次いで「かすがい」(32%)「心配の種」(26%)と『感情的な関係』を強く認識する回答が続きました。一方で、他国の保護者にとって子どもは「喜び」(67%)に次いで「社会貢献」(45%)「自立」(44%)が多く、日本と比べて『社会的役割』への期待が強い傾向にありました。
- ② **将来への期待：『身近な人間関係』を重視する日本の保護者、『社会的・経済的な成功』を期待する他国の保護者**
日本の保護者は子どもの将来に「自分の考えをしっかりと持つ」(68%)を最も期待しており、次いで「家族を大切に」(58%)「他人に迷惑をかけない」(46%)「友人を大切に」(38%)といった『身近な人間関係』を重視する回答が続きました。他国の保護者は「家族を大切にする人」(46%)を最も重視しているものの、「経済的に豊か」(41%)「社会のために尽くす」(35%)といった『社会的・経済的な成功』を期待する回答が多い傾向にありました。
- ③ **親の『子ども観』が『将来への期待』に影響か**
日本は「親の喜び」や「家族のつながり」といった身近な幸せを認識することで、個人の考えや身近な人間関係を重視する傾向があります。一方の他国は「独立した存在」で「将来の社会の一員」といった役割期待を認識することで、経済的な成功や社会貢献を重視する傾向につながっていると考えられます。このように、『子ども観』と『将来への期待』は明確に一貫性を持っていることが示されました。

調査の背景

子どもの学習意欲を高める要因として、親の励まし、学習環境の整備、適切な指導などが指摘されています。これらの要因には、保護者自身の『**将来への期待**』が存在します。つまり、親が「子どもをどう見ているか」「何を期待しているか」という意識が、子どもに対する教育的な働きかけや、子どもが学習に向かう動機付けに影響を与える可能性があります。

幼児期の家庭教育国際調査（ベネッセ総合教育研究所、2018 年）では、4 か国の保護者を対象に『**子ども観**』と『**将来への期待**』の**関係性**について調査し、国ごとに傾向が異なることが報告されています。本調査では、この調査を参考に調査対象を世界 11 か国に拡大し、「親にとってお子様はどのような存在か」「お子様に将来どのような人になってほしいか」を質問することで、**各国の文化背景による意識の差をより広範に検証し、その実態を明らかにすることを試みま**

した。

調査方法

- 【調査テーマ】 基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査 2025
- 【調査時期】 2025 年 4 月～8 月
- 【調査対象】 世界 11 か国の小学 4 年生および中学 2 年生相当の子どもを持つ保護者
- 【調査方法】 (1) インターネットパネル調査
アメリカ、イギリス、フランス、中国、南アフリカ（各 300 人） 小計：1,500 人
(2) 学校調査（1 か国あたり 1～数校の学校および自宅での調査）
エクアドル（173 人）、ペルー（75 人）、エジプト（86 人）、インドネシア（87 人）、
ネパール（104 人）、日本（288 人） 小計：813 人
- 【回答サンプル総数】 2,313 人
- 【調査主体】 (1) スプリックス教育財団が株式会社クロス・マーケティングに委託して実施
(2) スプリックス教育財団が株式会社スプリックスに委託して実施

※ 学校調査（エクアドル、ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、日本）では、回答者はランダムに抽出されたものではありません。そのため、便宜上「国名」として記載していますが、特定の地域や学校の結果であることにご留意ください。

※ 本報告では、日本の調査結果をインターネットパネル調査の 5 か国合計（以下パネル 5 か国と記載）および日本を除く学校調査の 5 か国合計（以下学校 5 か国と記載）との比較を中心に報告しています。日本以外の各国の回答については、付録の PDF をご参照ください。

※ 本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「スプリックス教育財団調べ」と明記してください。

調査結果

① 子ども観：『感情的な関係』を強く意識する日本の保護者、『社会的役割への期待』をする他国の保護者

「あなたにとってお子様はどのような存在ですか」という質問に対し、各国の保護者に表 1 の 11 の選択肢から、当てはまるものをすべて選んでもらいました。その結果を日本の保護者の回答が多い順に示したものが図 1 です。さらに、日本と他国の回答率の差が大きい 6 項目について、その回答率の差を図 1 右上挿入図に示しました。

日本の保護者の特徴として、子どもの存在は「**喜び**（私の人生に幸せと笑いをもたらしてくれる存在）」(90%)とする回答が圧倒的に多く、次いで、「**かすがい**（配偶者・パートナーと私をつなぐ存在）」(32%)や「**心配の種**（苦労や心配が多い存在）」(26%)といった**感情的な家族のつながりを認識**していることがわかります。その一方で、「**自立**（子自身が自立した存在）」(23%)や「**社会貢献**（将来の社会を担ってくれる存在）」(16%)は他国と比べて低い結果となりました。

一方、**他国 10 か国の保護者**の特徴としては、日本よりは少ないものの「**喜び**（私の人生に幸せと笑いをもたらしてくれる存在）」（パネル 70%、学校 59%）が最多で、次いで「**社会貢献**（将来の社会を担ってくれる存在）」（パネル 44%、学校 49%）や「**自立**（子自身が自立した存在）」（パネル 45%、学校 44%）が強く認識されていました。

日本は子どもの存在を「親の喜びであり、家族の絆であり、心配の種である」といった『感情的な関係』として強く認識していました。一方の**他国は「親の喜びであるが、子どもは独立した存在であり、将来の社会の担い手である」と認識**する傾向が強く、『**社会的役割への期待**』が日本より強いことがわかりました。

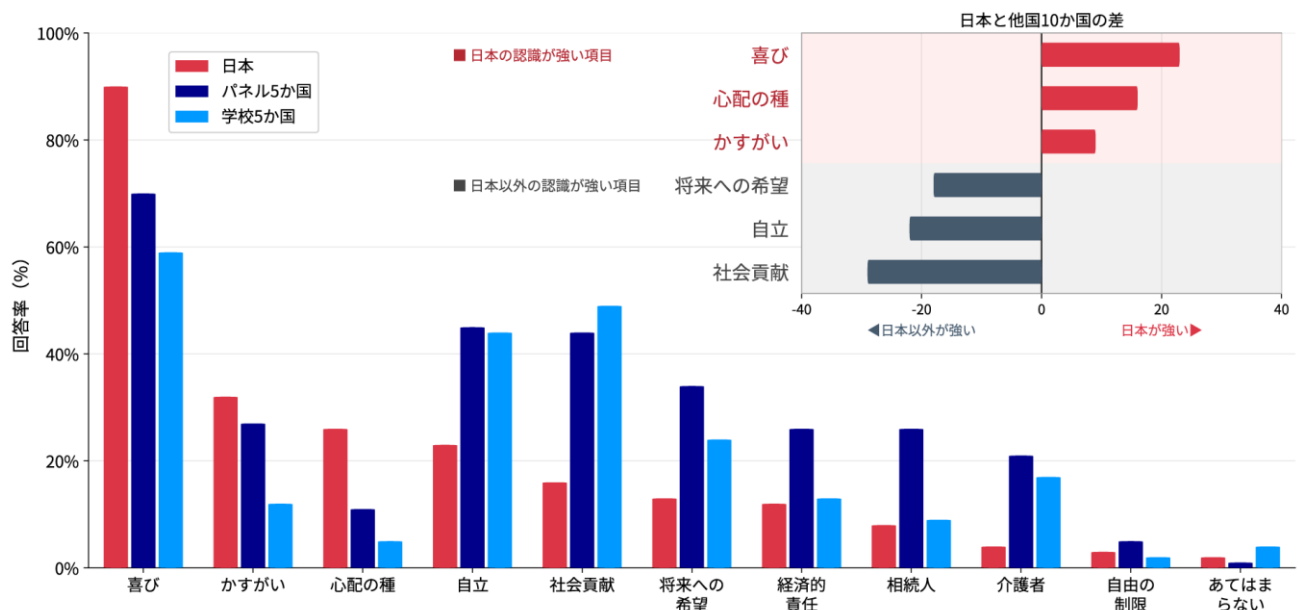


図 1. 日本とパネル調査 5 か国、学校調査 5 か国の保護者による「子ども観」の回答

「あなたにとってお子様はどのような存在ですか」という質問に対する回答。複数選択可能。パネル 5 か国は、アメリカ・イギリス・フランス・南アフリカ・中国の回答の合計、学校 5 か国はインドネシア・ネパール・エクアドル・ペルー・エジプトの回答の合計よりそれぞれ算出した。挿入図は日本と他国 10 か国で回答率の差が大きい 6 項目の回答率の差(ポイント)。

表 1. 「あなたにとってお子様はどのような存在ですか」という質問の 11 の選択肢

喜び：私の人生に幸せと笑いをもたせられる存在	かすがい：配偶者・パートナーと私をつなぐ存在	心配の種：苦労や心配が多い存在	自立：子自身が自立した存在	社会貢献：将来の社会を担ってくれる存在	将来への希望：自分の夢を託すことのできる存在
経済的責任：お金のかかる存在	相続人：先祖や家を受け継いでくれる存在	将来の介護者：将来、自分の面倒を見てくれる存在	自由の制限：私の自由を束縛する存在	あてはまるものがない	

② 将来への期待：『身近な人間関係』を重視する日本の保護者、『社会的・経済的な成功』を期待する他国の保護者

「お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか。」という質問に対し、各国の保護者に表 2 の 11 の選択肢から、当てはまるものを 3 つまで選んでもらいました。その結果を日本の保護者の回答が多い順に示したものが図 2 です。さらに、日本と他国の回答率の差が大きい 6 項目について、その回答率の差を図 2 右上挿入図に示しました。

日本の保護者の特徴として、子どもには「自分の考えをしっかり持つ人」(68%)を最も重視し、「自分の家族を大切にする人」(58%)「他人に迷惑をかけない人」(46%)「友人を大切にする人」(38%)といった身近な人間関係を重視する回答が続く一方で、「社会のために尽くす人」(7%)「周りから尊敬される人」(6%)「リーダーシップのある人」(4%)などの社会的な成功への期待は他国と比べて極端に低いことがわかりました。

一方、他国 10 か国の保護者の特徴としては、日本よりは少ないものの「自分の家族を大切にする人」(パネル 46%、学校 48%)が最多で、「経済的に豊かな人」(パネル 47%、学校 26%)「社会のために尽くす人」(パネル 34%、学校 37%)と続き、社会的・経済的な成功を重視する傾向が表れました。

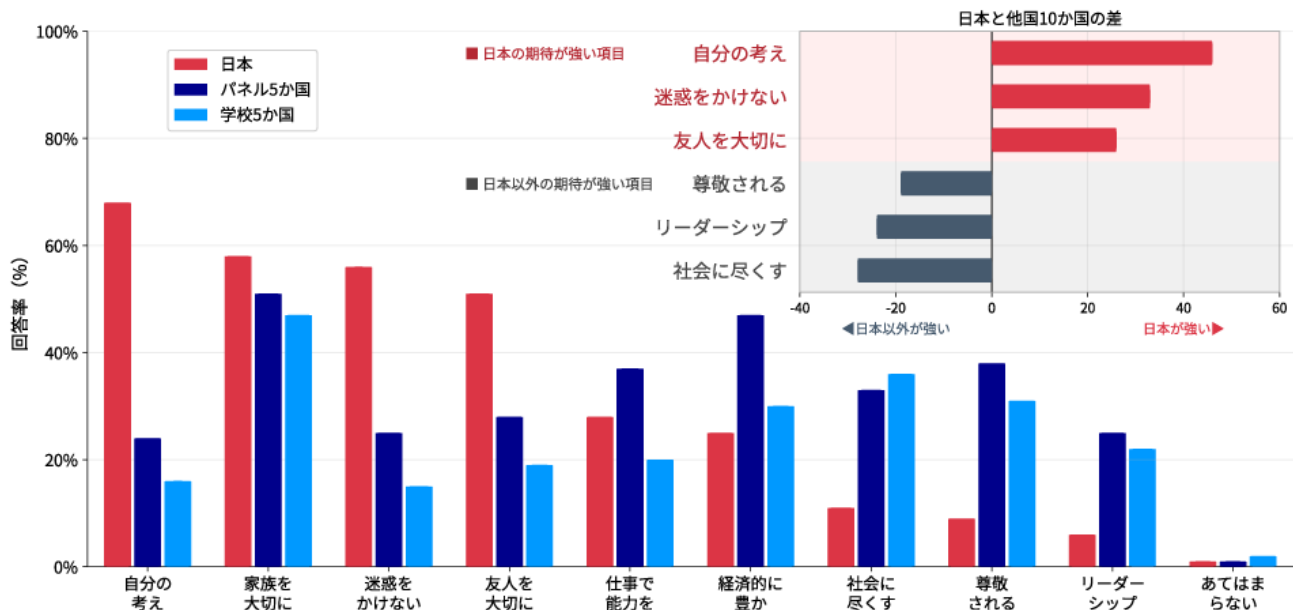


図 2. 日本とパネル調査 5 か国、学校調査 5 か国の保護者による「将来への期待」の回答

「お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか」という質問に対する回答。最大 3 つまで複数選択可能。パネル 5 か国は、アメリカ・イギリス・フランス・南アフリカ・中国の回答の合計、学校 5 か国はインドネシア・ネパール・エクアドル・ペルー・エジプトの回答の合計よりそれぞれ算出した。挿入図は日本と他国 10 か国で回答率の差が大きい 6 項目の回答率の差(ポイント)。

表 2. 「お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか」という質問の 11 の選択肢

自分の考えをしっかりと 持つ人	自分の家族を大切に する人	他人に迷惑をかけな い人	友人を大切にする人	仕事で能力を発揮す る人	経済的に豊かな人
社会のために尽くす人	周りから尊敬される人	リーダーシップのある人	のんびりと生きる人	あてはまるものがない	

日本は子どもに「自分の考えをしっかりと持ち、他人に迷惑をかけずに家族や友人を大切にする」といった『身近な人間関係』を大切にすることを期待していました。一方の他国は「家族を大切にし、社会のために尽くして経済的に豊かになる」といった『社会的・経済的な成功』を期待していることがわかりました。

③ 保護者の『子ども観』が『将来への期待』に影響か

では、保護者の『子ども観』と『将来への期待』はどのような関係があるのでしょうか。調査対象 11 か国で、『子ども観』と『将来への期待』でそれぞれ回答が多かった上位 2 つを表 3 にまとめました。

まず、表からはすべての国で「子は親の喜びである」が上位に来ており、将来への期待にも「家族を大切に」は上位にきていることから、「親にとって子は生きがいであり、家族を大切に生きてほしい」という意識は世界共通の認識であることが示唆されました。また、日本以外の多くの国では「社会貢献」や「自立」を強く認識しており、それが将来への期待の「経済的に豊か」「社会に尽くす」につながっている可能性が示唆されます。

一方で、「かすがい」を「喜び」の次に選んだのは日本だけであつたり、「自分の考え」を最も期待しているのは日本と中国だけであつたりと、日本の家族観の独自性も改めて明らかになりました。日本以外でも、ネパールが「喜び」よりも「自立」を強く認識したり、将来の期待でも「家族を大切に」よりも「仕事で能力を発揮」や「自分の考えを大切に」が多かったりと国によって傾向が異なり、その傾向は『子ども観』と『将来への期待』である程度の一貫性があることが示されました。

これから、日本の子ども観として「社会的役割よりも感情的な関係を重視」している結果、社会的な役割を重視し

ている他国と比べて**将来に社会的な役割や地位を期待していない**という日本独自の価値観が一貫性をもって明確になりました。

表 3. 11 各国の保護者による国別『子ども観』と『将来への期待』上位 2 項目

背景色は、灰色が日本含め多くの国で共通、青色が日本以外の多くの国で共通、橙色が 1 か国のみで回答があった項目。

		『子ども観』		『将来への期待』	
		1位	2位	1位	2位
パネル調査	アメリカ	喜び 62%	社会貢献 42%	家族を大切に 50%	経済的に豊か 44%
	イギリス	喜び 70%	社会貢献 48%	家族を大切に 55%	経済的に豊か 42%
	フランス	喜び 73%	自立 39%	家族を大切に 56%	経済的に豊か / 尊敬される 44%
	南アフリカ	喜び 78%	社会貢献 59%	経済的に豊か 63%	家族を大切に 42%
	中国	喜び 68%	自立 52%	自分の考え 49%	仕事で能力を 45%
学校調査	エクアドル	喜び 73%	社会貢献 60%	家族を大切に 61%	社会に尽くす 54%
	ペルー	喜び 55%	社会貢献 39%	家族を大切に 55%	社会に尽くす 36%
	エジプト	喜び 74%	社会貢献 70%	尊敬される 50%	家族を大切に / リーダーシップ 41%
	インドネシア	喜び 63%	自立 52%	家族を大切に 56%	経済的に豊か 38%
	ネパール	自立 42%	喜び 23%	仕事で能力を 24%	自分の考え 22%
	日本	喜び 90%	かすがい 32%	自分の考え 68%	家族を大切に 58%

まとめ

今回の調査により、11 개국調査においても国ごとに傾向が異なり、**保護者の『子ども観』と『将来への期待』が一貫性を持っていることが確認**されました。

例えば、**日本の保護者**にとっては、子どもの存在の意味は「親の喜びであり、家族の絆であり、心配の種」です。このような『子ども観』を持つ日本の保護者は、子どもに将来「自分の考えをしっかり持ち、他人に迷惑をかけずに家族や友人を大切にする」ことを期待します。**親子関係や友人関係といった『つながり』を大切にする価値観**が両者に強く反映されています。対照的に、**他国 10 개국の保護者**は、子どもを「親の喜びであるが、子どもは独立した存在であり、将来の社会の担い手である」と認識する傾向が強く、それが「**家族を大切にし、社会のために尽くして経済的に豊かになる**」ことへの期待の高さにつながっていると考えられます。

こうした『子ども観』と『将来への期待』の違いは、**子どもの学習動機づけにも影響を与えている可能性**があります。例えば、日本では「友達が塾に通っているから行く」「友達がやめたから私もやめる」といった、**身近な人間関係に基づく学習行動が見られる**ことがありますが、これは**保護者の価値観が反映された結果**かもしれません。一方、他国では『**家族の期待に応える』『社会的地位を獲得する**』といった目標が学習の動機になりやすいと推察されます。こうした違いを理解することは、各国の文脈に適した教育環境を考える上で重要な視点となるでしょう。

今後もスプリックス教育財団では、保護者の『子ども観』と『期待』がどのように子どもの進路選択や学習成果に具体的な影響を与えるかについて、詳細な分析を進めてまいります。

ニュースリリースに関するお問い合わせ先

公益財団法人スプリックス教育財団 担当 : 調査窓口 秦・三村

所在地 : 〒150-6222 東京都渋谷区桜丘町 1-1 渋谷サクラステージ SHIBUYA タワー 22F

URL: <https://sprix-foundation.org/> E-mail: survey@sprix-foundation.org

付録

調査方法の詳細

- (1) 調査会社（株式会社クロス・マーケティング）が実施したインターネットパネル調査。WEB（パソコン・タブレット・スマートフォン等）により計算テスト（子どものみ対象）および意識調査（保護者と子ども対象）に回答。
- (2) 株式会社スプリックスが実施した国際基礎学力検定 TOFAS を調査時期の期間内に受験した者のうち有志の学校。児童・生徒は学校の教室にて、保護者は自宅等で、WEB（パソコン・タブレット・スマートフォン等）により回答。

備考：調査項目（保護者対象） ※今回報告した項目のみ記載

質問文 1：あなたにとってお子様はどのような存在ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

選択肢：喜び：私の人生に幸せと笑いをもたらしてくれる存在 / 自立：子自身が自立した存在 / かすがい：配偶者・パートナーと私をつなぐ存在 / 社会貢献：将来の社会を担ってくれる存在 / 心配の種：苦労や心配が多い存在 / 経済的責任：お金のかかる存在 / 相続人：先祖や家を受け継いでくれる存在 / 将来への希望：自分の夢を託すことのできる存在 / 自由の制限：私の自由を束縛する存在 / 将来の介護者：将来、自分の面倒を見てくれる存在 / あてはまるものがない

質問文 2：お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか。特にあてはまるものを、1 つ以上 3 つまでお選びください。

選択肢：自分の考えをしっかり持つ人 / 友人を大切にする人 / 自分の家族を大切にする人 / 他人に迷惑をかけない人 / 経済的に豊かな人 / 仕事で能力を発揮する人 / 周りから尊敬される人 / リーダーシップのある人 / のんびりと生きる人 / 社会のために尽くす人 / あてはまるものがない

関連調査一覧

国際調査

- ・ 幼児期の家庭教育国際調査（ベネッセ教育総合研究所 2018）
https://benesse.jp/berd/jisedai/research/detail_5257.html

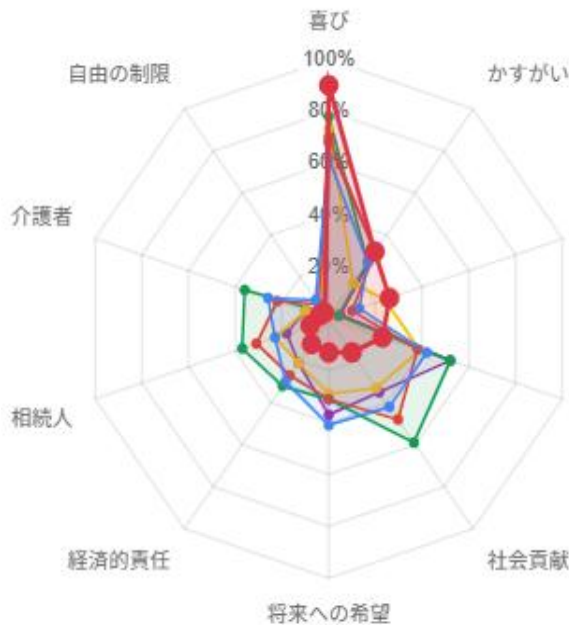
補足データ

11 各国それぞれの回答と日本の比較

本文中では日本とパネル調査の 5 か国合計、学校調査の 5 か国合計と比較しました。図 A では、日本以外の国についても国ごとに特徴を見ることができます。また、1 か国ずつで見てもやはり日本以上に「社会的役割よりも感情的な関係を重視」している国はなく、その特異性を確認することができます。

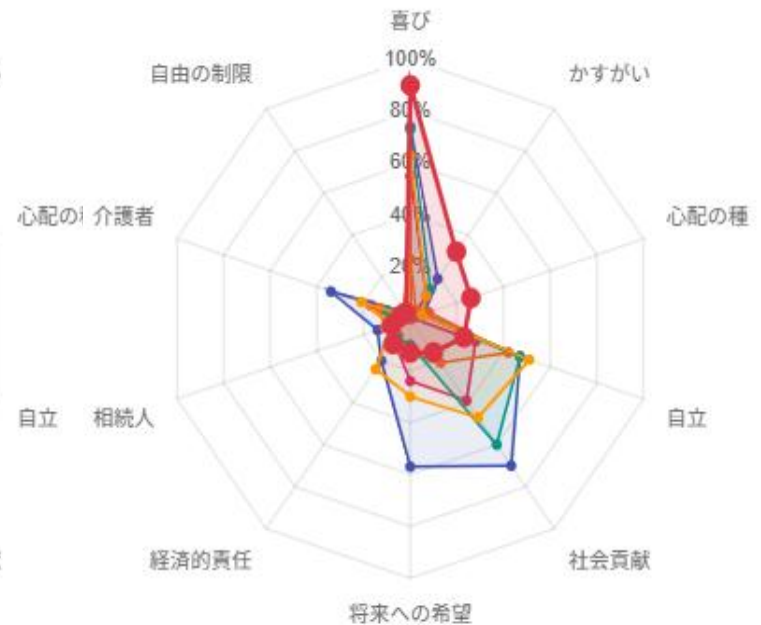
(a) 日本とパネル5か国の『子ども観』

日本 アメリカ イギリス
フランス 南アフリカ 中国



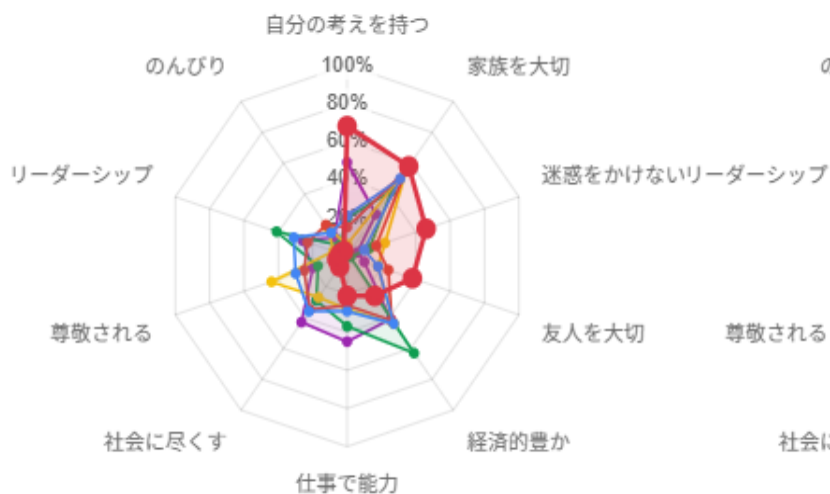
(b) 日本と学校5か国の『子ども観』

日本 インドネシア エクアドル
ネパール エジプト ペルー



(c) 日本とパネル5か国の『将来への期待』

日本 アメリカ イギリス
フランス 南アフリカ 中国



(d) 日本と学校5か国の『将来への期待』

日本 インドネシア エクアドル
ネパール エジプト ペルー

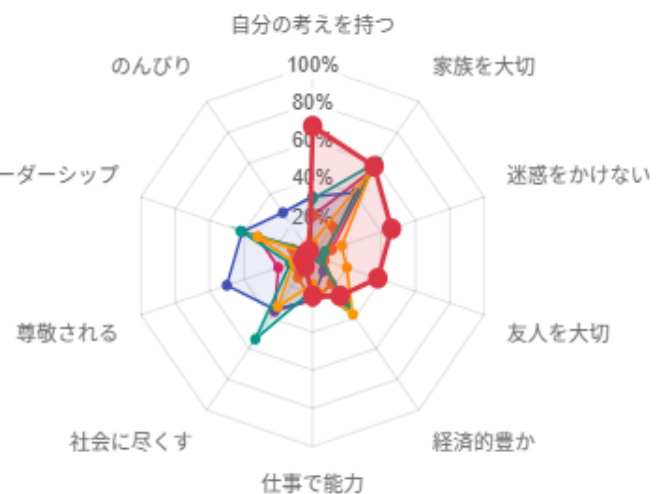


図 A 日本とパネル5か国または学校5か国の保護者による国別『子ども観』と『将来への期待』

スプリックス教育財団および調査会社の説明

公益財団法人スプリックス教育財団 (<https://sprix-foundation.org/>)

公益財団法人スプリックス教育財団では、金銭的な理由による学習機会の喪失を防ぐため、支援を必要とする若い世代への奨学金の支給を行います。また調査研究事業として、教育の側面から諸問題に対する調査・研究を行い、これらの問題を社会で考える足掛かりを提供したいと考えています。

東京本部：東京都渋谷区桜丘町 1-1 渋谷サクラステージ SHIBUYA タワー22F

株式会社スプリックス (<https://sprix.inc/>)

株式会社スプリックスは、生徒に自信を与え、学習能力を高めることで将来の見通しを向上させることを使命として、1997 年に日本で設立されました。当社は、業界をリードする個別指導塾、教科書と教材、スキルのテスト、オンライン教育プラットフォーム、そして学術研究を含む幅広い教育サービスを提供しています。

株式会社クロス・マーケティング (<https://www.cross-m.co.jp/>)

株式会社クロス・マーケティングは東証プライム上場企業「クロス・マーケティンググループ」のグループ企業です。

クロス・マーケティンググループが保有するリサーチ機能の根幹に位置し、データマーケティング&インサイト領域において生活者理解のためのマーケティングリサーチ事業、生活者データの効率的な収集・活用を推進するデータマーケティング事業を幅広く展開しています。

国際基礎学力検定 TOFAS (<https://tofas.education/jp/>)

TOFAS は、世界各国で実施されているグローバルなオンライン検定試験です。国際的な実施により、児童・生徒や教育機関にとって世界レベルでの比較が容易になり、グローバル化時代における貴重な知見となっています。

実績：実施した国数 51 国、受検受験者数 1500 万、学校数 2000 校以上。現在 20 言語以上に対応しています。(2025 年時点)